平成30年度
事業報告

Call
for
Entries

山形国際
ドキュメンタリー
映画祭2019

2019年10月10日(木)–17日(木)

作品募集

インターナショナル・コンペティション
第1次応募締切
2018年12月15日
第2次応募締切
2019年4月15日

アジア千波万波
応募締切
2019年5月15日

International Competition
The first deadline
December 15, 2018
The second deadline
April 15, 2019

New Asian Currents
Deadline
May 15, 2019

YAMAGATA International
Documentary Film Festival
2019 October 10–17, 2019

主催・認定NPO法人
山形国際ドキュメンタリー映画祭
〒990-0044
山形市木の実町9-52
木の実マンション201
phone: 023-666-4480
fax: 023-625-4550
e-mail: entry2019@yidff.jp

Presented by
Yamagata International
Documentary Film Festival (NPO)
#201, 9-52 Kinomi-cho
Yamagata City 990-0044 JAPAN
phone: 81-23-666-4480
fax: 81-23-625-4550
e-mail: entry2019@yidff.jp

www.yidff.jp

目次

YIDFF が掲げるミッション ―――― 3

平成30年度の総括 ―――― 4

会議開催状況 ―――― 4

[1] 山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019 開催準備 ―――― 5

[2] 出版事業 ―――― 17

[3] 映像文化推進事業 ―――― 18

[4] 上映会・鑑賞会推進 ―――― 19

[5] フィルムライブラリー活用・作品貸出事業 ―――― 24

[6] ネットワーク構築事業 ―――― 26

[7] 「311 ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」事業 ―――― 28

「8」映像文化創造都市推進活動 ―――― 29

「9」映像（撮影・上映）素材のデジタル化に伴う研究活動への協力 30

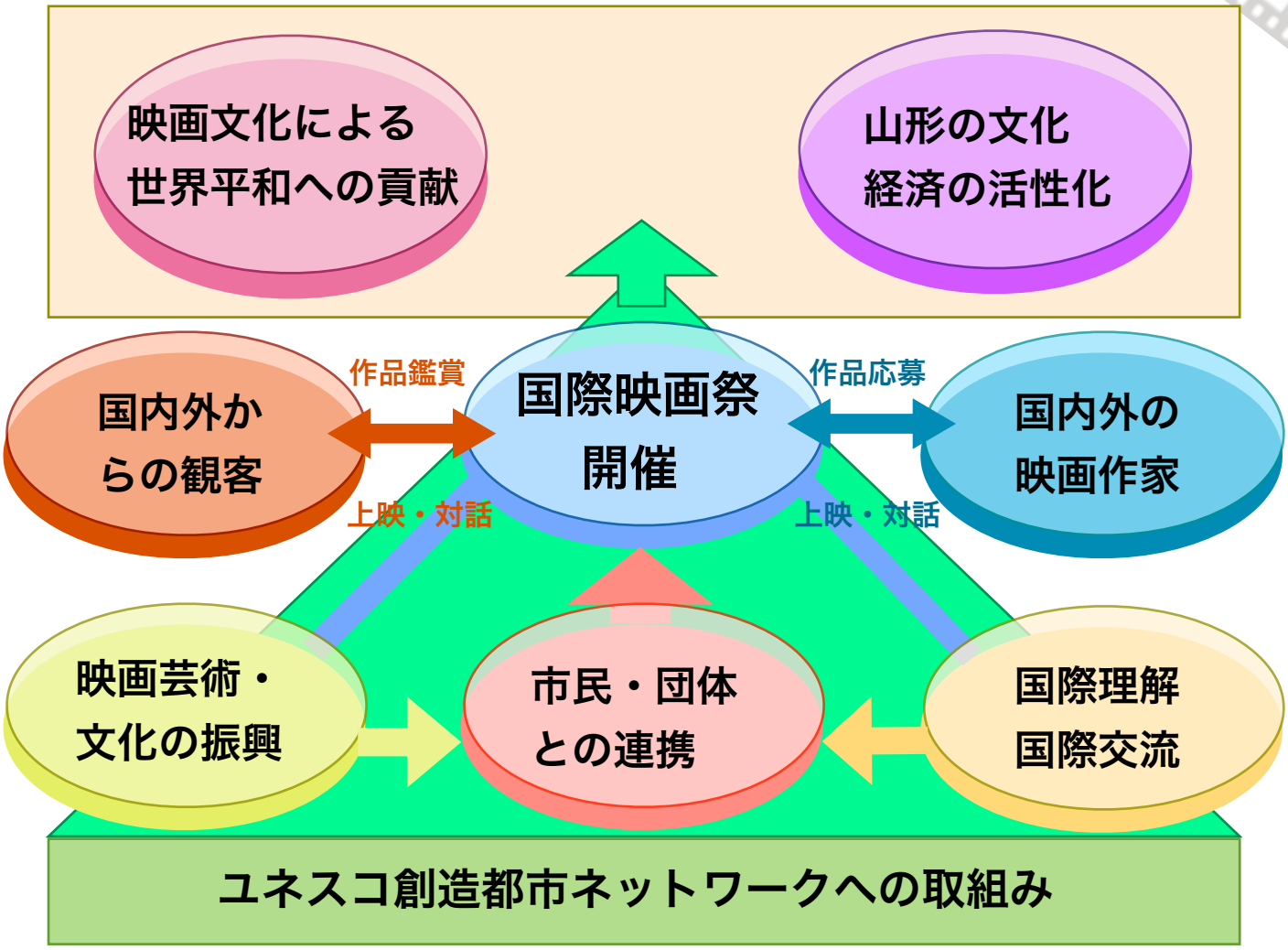
[10] 山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー管理業務 ―――― 30

[11] 正会員・賛助会員の拡大および寄付募集活動 ―――― 31

付録 ―――― 33

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭が掲げるミッション

認定NPO法人 山形国際ドキュメンタリー映画祭は、ドキュメンタリー映画に焦点をあてた国際映画祭の開催を主体として、映画芸術・文化、国際理解・国際交流に関する、市民と協働した様々な文化活動に取り組んでいます。



山形国際ドキュメンタリー映画祭のミッションは――

山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催を通じて、国際理解や交流を深め、世界の平和に貢献する。また、山形においては映画祭を開かれた窓として、世界の今を知り、自己や都市（地域）のあり方を研いてゆくと共に、山形の文化・経済の活性化に寄与する。

事業方針

(1) 山形国際ドキュメンタリー映画祭は、時代を映す鏡であるドキュメンタリー映画を世界中から集め、山形市民、県民をはじめ日本全国や世界各国から参加される方々と優れた映像文化を共有し、ディスカッションやシンポジウム等を通したより深い国際理解と国際交流を促進します。

(2) 映画祭の開催を通して、山形の物産や風土を国内外に紹介するなど、様々な情報を発信します。

(3) 東日本大震災関連作品を含め、世界中から集められた映像をライブラリーに保存し、鑑賞の機会を設け、継続的な共有を行います。

(4) 映画・映像による生涯教育活動を推進します。特に若年層に対しては、ワークショップなどの開催を通して、豊かな情操教育活動に寄与します。

総括：ますます高まる世界からの注目度／地元団体との強固な連携

平成30年度の事業の中核であった山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019開催に向けた準備において、インターナショナル・コンペティション、アジア千波万波の作品募集で今回はじめて作品をデータで受付られるようにした。デジタルに移行している映画制作の現状に合わせた対応であり、より応募がしやすいようにすることを目的としていた。またこれと合わせ「米アカデミー賞長編ドキュメンタリー映画部門」の公認映画祭になったことも後押しし（大賞を受賞した作品は無条件でアカデミー賞にエントリーできるようになった）、第一次締切を経過した中間集計において前回に比べて4割り増しで作品が集まっている状況となり、ますます本映画祭への世界からの注目度の高さを示した。国内においては「全国コミュニティシネマ会議2018 in 山形」の開催にあたって実行委員会を組織し、全国の映画上映者とのネットワークを強固にすると同時に、関係各所と連携しながらユネスコ創造都市やまがたの活動を全国にPRすることで、映画祭を育んだ街やまがたの存在感を示した。

会議開催状況

総会

□平成30年5月19日　平成30年度総会　（山形市総合福祉センター2階　交流ホール）

主要議題：平成29年度事業報告・収支決算・財産目録、監査報告、定款の変更（案）について、平成30年度事業計画（案）・予算（案）、役員改選、他

理事会

□平成30年4月17日　第129回理事会　（山形まなび館　交流ルーム）

主要議題：平成29年度決算（見込）・映像文化推進事業決算、平成29年度事業報告、平成29年度監査について、全国コミュニティシネマ会議について、他

□平成30年5月10日　第130回理事会　（山形まなび館　交流ルーム）

主要議題：平成30年度総会議案書、平成28年度総会スケジュールと役割、全国コミュニティシネマ会議2018山形実行委員会設立会議について、他

□平成30年6月1日　第1回臨時理事会

□平成30年6月26日　第131回理事会　（山形まなび館　交流ルーム）

主要議題：作品募集ポスター、「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019」開催日程について、作品募集締切日について、作品募集ポスター発表記者会見について、平成30年度4月・5月決算、米アカデミー賞による公認について、他

□平成30年7月24日　第132回理事会　（山形まなび館　交流ルーム）

主要議題：平成30年度6月決算、平成30年度第1次補正予算（案）、「全国コミュニティシネマ会議2018」実行委員会について、他

□平成30年8月28日　第133回理事会　（山形まなび館　交流ルーム）

主要議題：平成30年度7月決算、「山形ドキュメンタリー道場2018」への協力について、作品募集開始について、他

□平成30年9月20日　第134回理事会　（山形まなび館　交流ルーム）

主要議題：平成30年度8月決算、9/13台湾文化部（省）表敬訪問、他

□平成30年10月18日　第135回理事会　（山形まなび館　交流ルーム）

主要議題：平成30年度9月決算、賛助会員会費の見直しについて、「日本映像学会第45回山形大会」への協力について、他

□平成30年11月27日　第136回理事会　（山形まなび館　交流ルーム）

主要議題：平成30年度10月決算、笹川平和財団との連携について、平成31年度芸術文化振興基金要望書提出について、他

□平成30年12月18日　第137回理事会　（和ゆう膳）

主要議題：平成30年度11月決算、作品応募状況について、寄付者実績状況について、他

□平成31年1月29日　第138回理事会　（山形まなび館　交流ルーム）

主要議題：平成30年度12月決算、平成30年度第2次補正予算（案）、臨時職員給与規定の一部変更について、臨時職員の新規採用について、賛助会員会費の金額確定について、他

□平成31年2月20日　第139回理事会　（山形まなび館　交流ルーム）

主要議題：平成30年度1月決算、監査日程および総会日程、プレイベント―禁じられた遊び―について、他

□平成31年3月26日　第140回理事会　（男女共同参画センター　研修室1）

主要議題：平成30年度2月決算、第3次補正予算（案）、他

［1］山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019 開催準備

（1）山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019 の日程の検討と決定

■2017年映画祭の開催結果を踏まえ、「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019」開催日程についての検討を行った。その結果、10月の3連休を含む10月10日［木］から10月17日［木］というスケジュールによって行うことが決定された。

開催日程	開催内容
10月10日［木］	開会式（オープニング上映）
10月11日［金］	作品上映スタート
10月12日［土］	本上映　3連休1日目
10月13日［日］	本上映　3連休2日目
10月14日［月・祝］	本上映　3連休3日目
10月15日［火］	本上映
10月16日［水］	本上映 ＋ 授賞式（クロージング上映）
10月17日［木］	受賞作一挙上映（アンコール上映）

（2）開催会場の検討

■スクリーン設置数とこれまでの集客人数、運営効率および2017年開催時に集計したアンケートによる観客の声を考慮し、上映会場の検討を行った。フォーラム山形シアター4（定員98席）について連日（特に3連休中）に定員オーバーが発生しており、観客からのクレームが上がっていた。この状況を受けて、プログラムに適した会場を調査、検討した結果、フォーラム山形2スクリーン（これまでは3スクリーン）、ソラリス1スクリーン（定員251席 or 139席）を借用する方向で調整を進めることになった。これにより、最適な定員を確保し、より集客を高める体制を整えることができる。

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019 上映会場

山形市中央公民館（アズ七日町）、山形市民会館、フォーラム山形、山形美術館、ソラリス、他

（3）企画検討と調査研究

■下記の企画について検討および調査研究、準備を行った。現在も引き続き行っている。

①インターナショナル・コンペティション

公募により作品を集め、有識者および市民で構成される選考委員会による選考を経て、上映作品15本を選出。コンペティション形式で上映する。開催時は国際審査員により大賞（ロバート＆フランシス・フラハティ賞）をはじめ、4つの賞が授与される。

②アジア千波万波

アジアの新進ドキュメンタリー作家の作品を紹介し、応援するプログラム。最も今後が期待される作品には、小川紳介監督の精神を受け継いで設置された小川紳介賞が授与される。

③特別招待作品

ドキュメンタリー映画の巨匠監督の最新作や審査員の作品等、話題作を紹介するプログラム。

④スペシャル・プログラム

◇日本プログラム

日本のドキュメンタリー作品の様々な試みを世界に向けて紹介するプログラム。

◇特集プログラム（地域特集A）

ミクロネシアを中心にオセアニアの島々に着目。大戦の記憶、大国による植民地化の歴史、そして現在進行形の様々な問題が行き交う地域で映画・映像表現をどのように発揮できるかを探索する。

◇特集プログラム（地域特集B）

日本ではあまり紹介されたことがないイラン老舗の映画制作プロダクションの作品をまとめて上映する。

◇特集プログラム（テーマ型特集A）

「映画」と、その作り手たちに焦点を当てたドキュメンタリー映画を特集。2015年に行い、好評を博した「Double Shadows／二重の影」プログラムの進化版。

◇特集プログラム（テーマ型特集B 小規模）

イギリスのドキュメンタリー映画が日本のドキュメンタリー映画に与えた影響を考察するプログラム。映画史的に重要な時代を実際の作品を通して俯瞰する。

◇やまがたと映画

現代史を映し続けたヤマガタを映画・映像作品によって再発見する。様々な視点と試みで山形と映画の関わりを映し出す。

◇ともにある Cinema with Us

2011年3月11日の東日本大震災による津波や原発事故という未曾有の経験と課題を見つめ伝えていくプログラム。YIDFF 2011 から5回目。世界の地震国（大規模災害に見舞われた国）における映像製作の現状にも視野を広げ、震災映像を考えるプログラム。

◇インド北東部映画企画

インド北東部で新たに立ち上がるアーカイブプロジェクトと連携し、日本では見る機会の少ないインド北東部のドキュメンタリー映画作品、記録映像を上映する。

◇ヤマガタ・ラフカット

撮影、編集途上にあるプロジェクトを公募、ラフカット（粗編集版）の上映と公開対話を行い、より豊かな映画の誕生を模索する。

◇その他

その他、ワークショップ、各種シンポジウム、トークセッションを予定。

⑤関連企画

◇映画祭開会式、歓迎レセプション、授賞式、さよならパーティー
◇香味庵クラブ（市民と映画関係者の交流の場）
◇映画祭デイリーニュースの発行
◇ゲスト観光ツアー（山寺）
◇他団体との協力・共催企画

（4）作品募集・受付業務

◇作品募集のための規約、募集用紙の作成、配布（国内外）

■作品応募呼びかけのため、ポスター、ポストカードの作成、配布（国内外）を行った。今回から作品の送付についてオンラインでの受付を開始。公式サイトからアクセスし、作品をアップロードするシステムを新たに構築した。これによりDVD等を送る手間がかからなくなり、より応募しやすくなった。

●制作部数

ポスター　800枚　　**ポストカード　8,500枚**

●送付先

海外　1,157件（前準備年比102.2%）　　**国内　2,201件（前準備年比101%）**

国内送付先：映画制作者、配給会社、製作会社、テレビ局、新聞社、映画祭、駐日大使館、映像関係機関・施設、映像関係教育機関（大学、専門学校）など。

●インターネット版

YIDFF公式サイト＞YIDFF 2019 情報＞作品募集＞規約＞オンライン応募用紙＞応募Q&A
サイトURL：http://www.yidff.jp/2019/entry/19entry.html

YIDFF 2019 作品募集ポスター

作品募集ポスターデザイン

■YIDFF 2019 作品募集ポスターのデザインは東北芸術工科大学と連携し、グラフィックデザイン学科の3年生20名に取り組んでもらった。審査の結果、安部結さんのデザインに決定し、ポスター800枚を印刷。同デザインをポストカードにも展開し、8,500枚を製作。国内外に発送し、作品募集について周知した。

◇問合せへの応対（電話、FAX、email）　◇応募作品の受付、分類作業

◇応募作品のデータベース入力作業

■世界中からドキュメンタリー映画の秀作を集めて上映するため、応募規約に基づき、平成30年9月1日から募集・受付業務を行った。現在も継続して行っている。

	応募件数 （平成31年3月末時点）	前回比 （平成31年3月末時点）	前回最終応募件数
インターナショナル・コンペティション （締切：平成31年4月15日当日消印有効）	1,111	126%	1,146件
アジア千波万波 （締切：平成31年5月15日当日消印有効）	457	184%	645件
2部門合計	1,568	139%	1,791件

■応募に関して、電話、email にて問合せ対応を行った。送られてきた作品については、分類、ナンバリングを行い、データベース入力作業を行った。現在も継続して行っている。

（5）作品選考業務

◇コンペティション選考委員会の設置と選考

□インターナショナル・コンペティション部門

●選考委員

山形側選考委員5名（山形市民、正会員、山形事務局）

東京側選考委員5名（映画評論家、映画研究者、東京事務局）

■上記、計10名の選考委員会を組織し、インターナショナル・コンペティション部門上映15作品を決定する作品選考を行っている。応募された全ての作品について、1作品につき最低2名が試写を行い、選考の俎上に上げられた作品については、選考委員全員が試写を行う。選考においては必ず最後まで作品を視聴し、早送り等は一切行わないことが原則。選考委員1名につき、およそ200～300作品の視聴を行う。選考委員の他、山形及び東京のアドバイザーがそれぞれの応募作品を視聴し、評価コメントを提出する作品予備選考を行っている。選考は現在も継続中である。

●選考会議開催状況

3月10日［日］東京事務局（東京都新宿区愛住町）にて第1回選考会議を開催。

第2回は5月12日［日］東京事務局にて、最終選考会議は6月15日［土］に山形事務局にて開催予定。

最終選考会議においてインターナショナル・コンペティション上映15作品が決定する。

□アジア千波万波部門

●選考委員

■山形事務局2名、東京事務局2名によってアジア千波万波部門上映作品を決定する選考を行っている。選考方法はインターナショナル・コンペティション部門と同様。選考は現在も継続中である。

●選考会議開催状況

数回の選考会議を経て、7月中旬に上映作品を決定する予定である。

（6）広報宣伝活動

■映画祭に対する関心や期待、参加意識を高めるために、広報宣伝活動を展開した。

プレイベントの開催

■映画祭 2019 の開催を広く知らしめることを目的としてプレイベントを開催した。

山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019 プレイベント
やまがたの山語り　山の恵みの映画たち 2019

開催日：2019年3月15日［金］16日［土］17日［日］
会場：フォーラム山形
上映作品数：14作品　　入場者数：1,038人
※『縄文にハマる人々』は3月15日［金］～21日［木］上映

■「山の恵みの映画たち 2019」は市民による実行委員会の方々の絶大なるご協力や県内各地の広報協力者、チケット販売協力者からの応援をいただき、県内外からの多くの参加者を得て、盛会の内に開催することができた。山岳映画の枠を超え、山だけではなく川や海と人との関わりや独特の文化を映画とトークを通して味わうプログラム。2016年の前回同様、普段はドキュメンタリー映画を積極的には見ない方々の参加も多く見受けられ、アンケートによれば映画祭に参加したことがない観客が全体の半数を超え、プレイベントとしての効果を上げたと思われる。

上映作品

『縄文にハマる人々』（325人）『早池峰の賦』（48人）『満山紅柿』（44人）『ディア・ハンター』（92人）『海の産屋』（51人）『消えたプラスチック』（77人）『緑はよみがえる』（56人）『タイマグラばあちゃん』（67人）『山〈モンテ〉』（63人）『ナンダ・コット/マナスルに立つ』（130人）『川はだれのものか』（43人）『富士山頂観測所/海へ』（42人）

山形国際ドキュメンタリー映画祭2019プレイベント × やまがた市民映画学校

ドキュ山フェス　劇場は星夜にて

〈ドキュ山ユース〉企画　野外上映会

開催日：2018年7月29日［日］

会場：文翔館 県政史緑地

17:00～

- **コマ撮りワークショップ「じゅっきーくんと映画をつくろう」　16人**
- **国際理解ワークショップ「世界がもし100人の村だったら」　24人**

19:10～

- **野外上映会『どこに行く』　92人**

合計参加者数：132人

■山形国際ドキュメンタリー映画祭の高校生チーム〈ドキュ山ユース〉企画による野外フェスを山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019 プレイベント、平成30年度山形市創造都市推進事業やまがた市民映画学校として開催した。高校生をメインとした若年層に映画祭の開催周知を行うとともに、映像制作と国際理解に関するワークショップを行い、市民を対象とした生涯学習の機会を設けた。国際理解ワークショップではIVY youth とドキュ山ユースがはじめて連携した。イベント感を高める目的で野外上映会を初開催。会場にはキッチンカーを出店し、アジア料理と飲み物で異国情緒を楽しみながら、映画上映を堪能する機会を設けた。高校生の集客を目指した活動により、市内から20名を超える高校生が観客として集まった。ドキュメンタリー映画を鑑賞することによって、世界で起こっている出来事を肌身に迫った形で感じることができたとの感想などが寄せられた。

山形国際ドキュメンタリー映画祭2019プレイベント×山形ビエンナーレ2018
シネマ通りの夜

会場：とんがりビル　KUGURU

●9月7日［金］　19:00～　上映作品：『ドンキー・ホーテ』
**　トーク：荒井良二（アーティスト・絵本作家）×ドキュ山ユース　入場者数：32人**

●9月14日［金］19:00～　上映作品：『幸福は日々の中に。』
**　トーク：茂木綾子（写真家・映画監督）、福森伸（しょうぶ学園園長）入場者数：67人**

●9月21日［金］19:00～　上映作品：『頑固な夢』
**　トーク：根岸吉太郎（映画監督、東北芸術工科大学理事長）　入場者数：27人**

3日間合計入場者数：126人

■山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019 プレイベントとして、9月7日、14日、21日の三日間にわたり、「山形ビエンナーレ2018」とのコラボレーション企画「シネマ通りの夜」を開催した。前回2016年に同様のタイトルにて企画上映を行ない、大変好評を博したということで、今回2度目の開催となった。「山形ビエンナーレ」と組むことによって、芸術表現に興味を持つ観客層に映画祭開催を周知する目的にて行なった。40席の会場には連日「山形ビエンナーレ」の観客が多数訪れ、14日には会場に入りきらないほど多くの観客がつめかけ、注目度の高さを示した。またアフタートークでは、芸術祭と映画祭とを結びつける、創造性に溢れた対話がなされ、有名アーティストや有名監督たちの声に集中して耳を傾ける観客の姿が見受けられた。

ポスター・チラシの製作・設置

■映画祭の開催告知および作品募集については（4）作品募集・受付業務で述べたとおり。また3つのプレイベント（「山の恵みの映画たち 2019」「ドキュ山フェス 劇場は星夜にて」「シネマ通りの夜」）や「金曜上映会震災特別プログラム」などの宣伝チラシにおいて「山形国際ドキュメンタリー映画祭2019」開催告知を掲載し、周知に努めた。詳細は以下のとおり。

上映企画等チラシ	配布部数
「やまがたの山語り　山の恵みの映画たち 2019」チラシ	10,000部
「ドキュ山フェス　劇場は星夜にて」チラシ	5,000部
「世界一と言われた映画館」チラシ	12,000部
「子どもの映画教室」チラシ	500部
「シネマ通りの夜」チラシ	1,000部
「金曜上映会特別版　震災を伝える」チラシ	350部

公式ウェブサイト及びメールマガジン等、インターネットを利用した広報活動

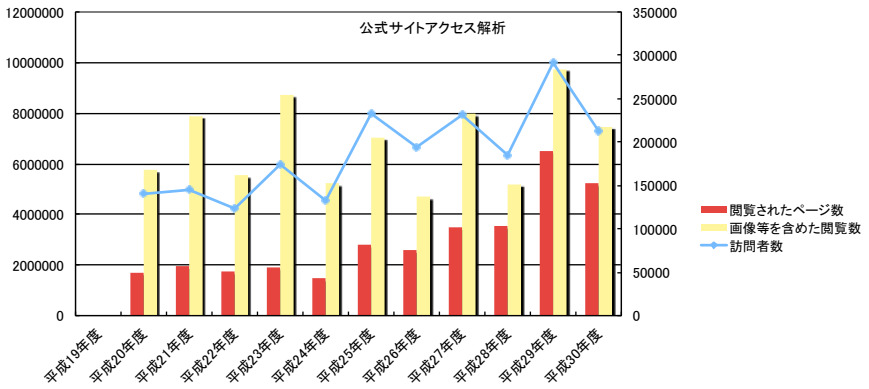
■公式ウェブサイトでは作品募集に関する情報の他、最新情報を掲載。不特定多数の方に山形国際ドキュメンタリー映画祭 2019 の開催と日常的活動をPRし、周知に努めた。また、メール配信システムによる『YIDFFニュース』を日本語版、英語版の2パターン制作し、月一回定期配信、上映会情報などをメインに映画祭に関する最新情報を希望者に提供した。その他、Twitter、Facebookによる双方向情報発信システムを活用し、PRに努めた。またビジュアル重視の公式ブログは、上映イベントの開催報告などを多数の写真を使って掲載するなど、よりわかりやすく映画祭の活動を広く発信した。

YIDFFオフィシャルサイト［URL：www.yidff.jp］

【アクセス解析】

期間：2018年4月から2019年3月まで（12ヶ月）

訪問者	212,829人	（前準備年比 115.5%）
閲覧されたページ数	5,212,496件	（前準備年比 147.6%）
画像等を含めた閲覧数	7,459,436件	（前準備年比 143.7%）



	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
訪問者数	データ無	140,566	145,300	123,444	174,140	132,467	232,453
閲覧ページ数	データ無	1,708,680	1,955,122	1,747,624	1,917,144	1,464,839	2,804,398
画像を含む閲覧数	データ無	5,751,687	7,878,738	5,533,004	8,705,025	8,207,973	7,021,634

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
訪問者数	193,669	231,636	184,287	291,092	212,829
閲覧ページ数	2,587,713	3,492,888	3,530,966	3,492,888	5,212,496
画像を含む閲覧数	4,684,397	7,955,964	5,189,368	7,955,964	7,459,436

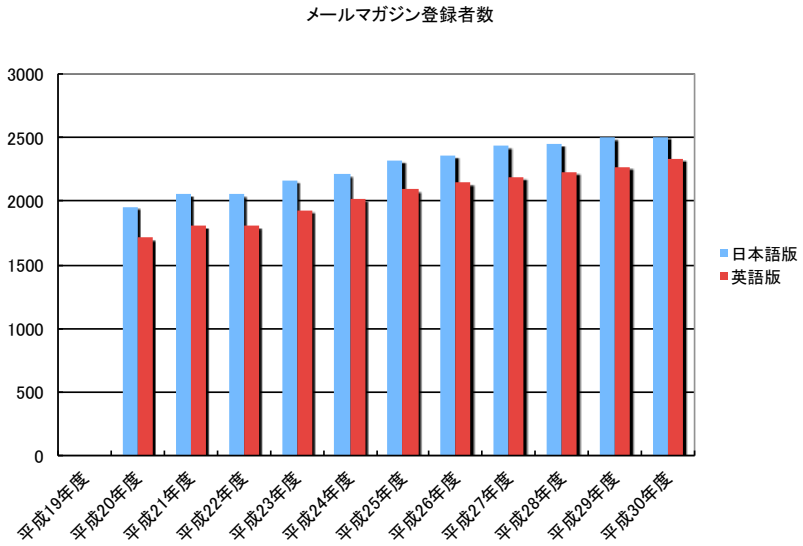
メールマガジン『YIDFFニュース』月1回発行（日本語版、英語版）

■多種多様な上映会情報に加え、その他トピック記事などを配信した。

【実登録者数】　※2019年3月現在

日本語版　2,507人　（前準備年比 102.4%）

英語版　2,335人　（前準備年比 104.7%）

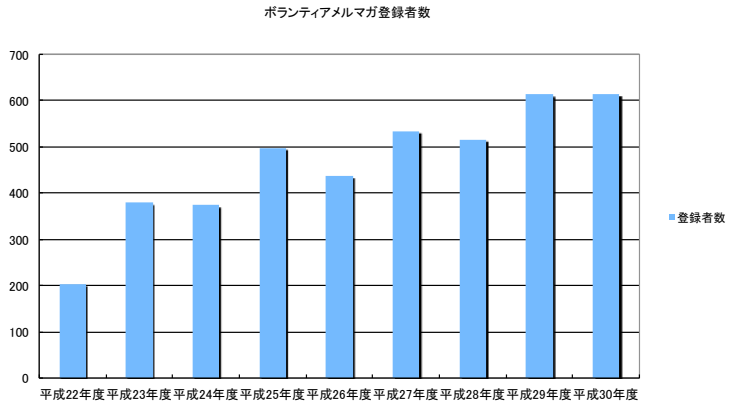


	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
日本語版	データ無	1,958	2,056	2,052	2,163	2,209	2,320
英語版	データ無	1,712	1,808	1,806	1,930	2,018	2,090

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
日本語版	2,357	2,431	2,449	2,497	2,507
英語版	2,145	2,190	2,231	2,272	2,335

ボランティアメールマガジン『ボラマガ！』月1回発行

日本語版のみ　614人　（前準備年比 119%）

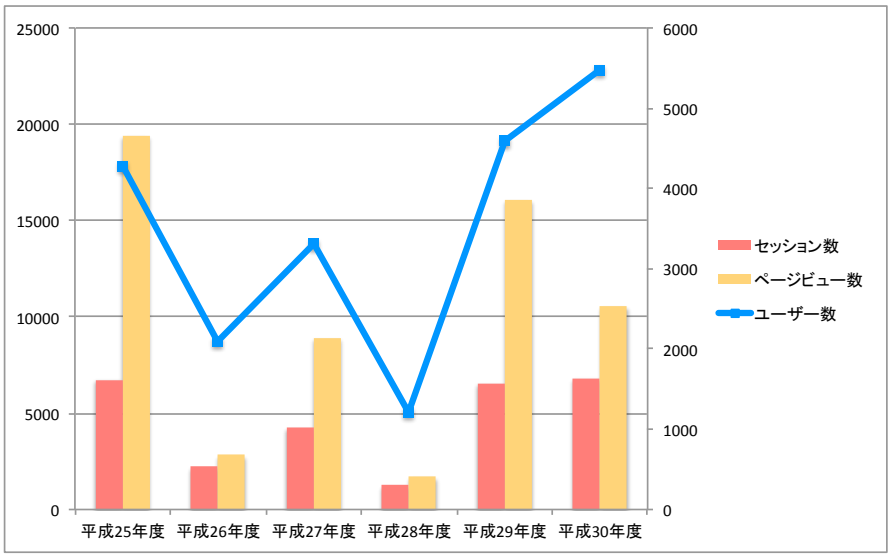


	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
登録者数	204	379	374	498	473	534	516

	平成29年度	平成30年度
登録者数	613	614

YIDFF公式ブログ『ドキュ山ライブ！』

■公式ブログを運用した。2017年の映画祭よりデザインを一新し、これまで山形国際ドキュメンタリー映画祭を知らなかった人たちにアプローチすることを目的として、より親しみやすいサイトを目指して各種記事の更新を行なった。最新情報の発信、イベントの報告などを写真や動画を多用してビジュアル的に訴える内容とすることで、公式サイトとの差別化をはかり、ユーザー数を徐々に伸ばしてきている。

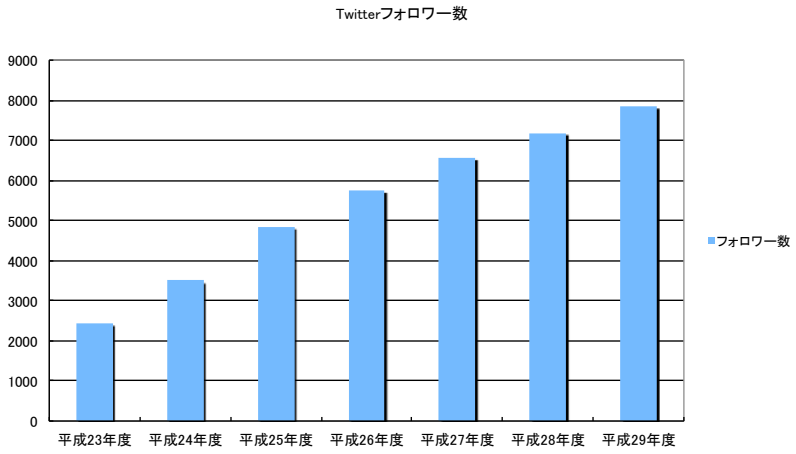


	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
ユーザー数	4,285	2,092	3,309	1,207	4,599	5,467
セッション数	6,747	2,223	4,258	1,274	6,537	6,802
ページビュー数	19,377	2,839	8,910	1,721	16,049	10,550

YIDFF公式Twitter　アカウント名：yidff_8989

■リアルタイムな情報発信を可能にするミニブログ。上映情報の発信などで、当日の集客に結びつく成果を上げた。

フォロワー数 8,325人（前回比 106.1%）



	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
フォロワー数	2,452	3,502	4,847	5,751	6,566	7,186	7,843

	平成30年度
登録者数	8,325

YIDFF公式Facebook　URL：https://www.facebook.com/yidff/

■映画祭公式のFacebookページを運用した。国内はもちろんのこと海外への情報発信に力を入れ、日本語英語並記とした。フォロワーは微増傾向を維持している。

フォロワー数 2,394人（前回比133.2%）

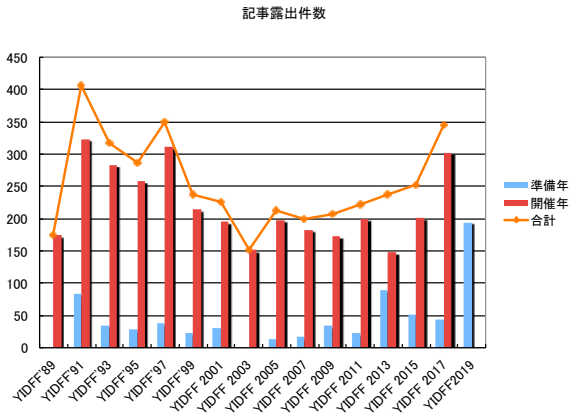
映画祭情報紙『ドキュやま！』の発行

■映画祭 2019 の情報やライブラリー作品上映情報などを掲載する映画祭情報紙『ドキュやま！』を制作した。山形市内を中心とした県内各所に配布。主催イベント上映などの事後報告を、躍動感のある写真と文章で紹介し、日常的に行っている映像文化振興活動を広く知ってもらう工夫を行った。プレイベントにおいても、上映情報の取得先として本紙を上げる観客が見られた。

判型：A4サイズ四つ折り　　発行：年間5回（偶数月1日、準備年は年間6回発行）
部数：各回7,000部配布（年間35,000部配布）

パブリシティの設定

■マスコミ各社に対して、映画祭開催に関する情報や注目トピックについて情報を発信した。作品募集ポスター発表記者会見の内容について、米アカデミー賞公認映画祭となった情報と共に全国の地方紙に露出した。また『世界一と言われた映画館』全国公開にあたっての露出があったことにより、例年を大きく上回る露出が獲得でき、映画祭を周知する大きな効果を上げた。



記事露出件数　191件（前準備年比477.5%）

【記者会見の開催】

◇作品募集ポスターデザイン発表記者会見

［8月21日　会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー試写室］

	1989	1991	1993	1995	1997	1999	2001	2003
準備年	データ無	83	35	29	38	23	31	データ無
開催年	174	323	283	258	311	214	195	151
合計	174	406	287	287	349	237	226	151

2005	2007	2009	2011	2013	2015	2017	2019
14	17	34	22	89	51	40	191
198	183	173	200	148	201	306	
212	200	207	222	237	252	346	

その他の広報宣伝活動

ラジオ出演

■各ラジオ局の番組内に山形国際ドキュメンタリー映画祭の専門コーナーを設け、事務局員が出演する形で映画祭の紹介を行った。

【ラジオ・モンスター】

□毎月第1木曜日　午後1時　「Mon-brun モンブラン」内

「ドキュメンタリーでドキュドキュ」コーナー出演（約15～20分）

内容：映画祭情報、各種上映会、イベント情報

雑誌連載

■山形県内で最も多くの販売実績を持つ「月刊山形ZERO★23」にてコラム「映画の処方箋」を連載した。映画祭の楽しみ方とおすすめの映画紹介、イベント紹介コーナーにて各種主催上映企画を紹介した。

【月刊山形 ZERO★23】

□毎月27日発売

「映画の処方箋」（1ページ）

内容：映画祭の楽しみ方紹介、上映イベント紹介

［2］出版事業

（1）映画祭関連の発行物の普及・販売

■映画祭関連の発行物の全国的な普及や販売を行い、映画祭への理解者を増やした。

◇過去書籍の紹介と販売

■映画祭ホームページ等で、山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 関連の出版物をはじめ、過去の映画祭関連出版物の普及・販売をすることで映画祭への理解者を増やすことを目的としている。他県において映画祭関連作品の上映が行われた際などに、注文が寄せられる傾向にある。

◇山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 公式カタログの普及

■2017公式カタログの販売普及を行った。

◇山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 ビジュアルブックレット及びインタビュー集の製作・普及

■2017映画祭の開催の様子を写真で伝えるビジュアルブックレットを製作し、企業協賛や映画祭周知のためのツールとして活用した。また映画祭2017に来形したゲストに対してデイリーニュース班が行なったインタビューについて冊子としてまとめ、広報ツールとして普及を行なった。

【製作した書籍】
□YIDFF 2017 ビジュアルブックレット
［800部、非売品、無料配布］
□YIDFF 2017 インタビュー集
［300部、非売品、無料配布］

書籍販売実績　29,320円（前準備年比80.1%）

【書籍別販売内訳】
『山形国際ドキュメンタリー映画祭2007-2017 公式カタログ』
『共振する身体―フレディ・M・ムーラー』
『アフリカを／から観る』
『政治と映画：パレスティナ・レバノン 70’s―80’s』
『Double Shadows／二重の影―映画が映画を映すとき』
『未来の記憶のために――クリス・マルケルの旅と闘い』
『回到一圏：日台ドキュメンタリーの12年後』
『映画に（反）対して–ギー・ドゥボール特集』

［3］映像文化推進事業

平成30年度売上実績　5,422,453円　（前準備年比81.6%）

■映像文化の推進を目的として、県内外各地に向けて自主上映の活性化を働きかける営業活動及び請負による映写業務等映画上映に関わる業務を展開した。また、そこでの関係の構築を通して、映画祭の広報宣伝を含めたPR活動を行った。本年度は、2017年に制作した『世界一と言われた映画館』の全国興行を展開し、興行収益獲得を目指した。現時点では、全国配給のための諸経費を先に興収から捻出する仕組みで動いているので実質的な粗利は出ていないが、諸経費の支払いが完了する次年度からはより多くの収入が見込めると考えられる。本件は映像文化推進事業の新たな事業展開として期待される。

（1）上映会事業

■映画・映像文化の振興と映画祭の認知度向上を目的として、［2］山形国際ドキュメンタリー映画祭2019 開催準備の項にて言及した各種プレイベントを展開した。

□**「やまがたの山語り　山の恵みの映画たち 2019」　チケット売上額：1,170,407円**

（2）映写業務

■所有する機材やスタッフの技術力を活かし、有料にて映写業務を請負った。

□**映写請負業務件数：22件**

（3）上映サポート事業

■映画「世界一と言われた映画館」ほか、各種映画作品を県内各地に紹介し、上映促進をサポートした。上映会を設定した箇所については設定手数料を受け取った。

□**上映会設定数：8件**

（4）映像ソフト・機器普及事業

■映像ソフトの販売、映像機材の販売はなかった。

□**販売実績件数：0件**

（5）その他

■映写機およびプロジェクタ等の機材の修理、メンテナンスを有料にて行った。

□**機材修理・メンテナンス件数：5件**

［4］上映会・鑑賞会推進

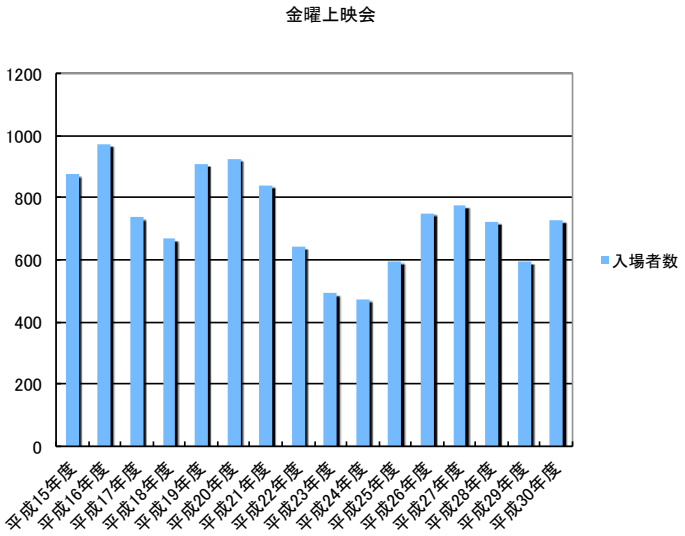
（1）市民・県民の様々な年齢層に対する、所蔵作品を中心とした鑑賞機会の創出

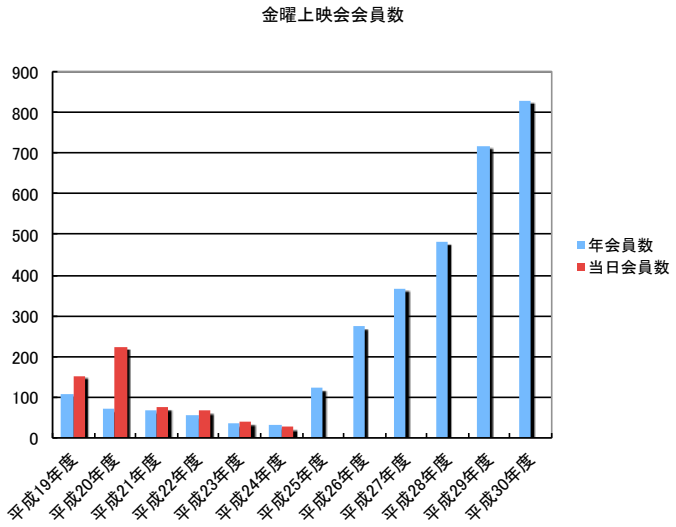
金曜上映会

■山形ドキュメンタリーフィルムライブラリーを会場とし、映画祭所蔵作品を始め、一般的には鑑賞機会が少ない作品の上映を行ない、市民県民に対して貴重な映像に親しむ機会を設けた。また、金曜上映会出張版として「やまがた市民映画学校」も開催した（非会員も入場可）。

□月2回金曜　計22回開催（「シネマ通りの夜」開催のため9月は休映）

年間入場者数　728人（前年比 122.4%）　**会員数　829人（前年比 115.5%）**





	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
入場者数	874	971	736	668	908	925	840	643
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入場者数	493	475	596	751	775	723	595	728

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
会員数	108	72	69	55	35	30	123
当日会員数	153	223	75	66	39	26	当日会員廃止

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
会員数	274	368	482	718	829
当日会員数	当日会員廃止	当日会員廃止	当日会員廃止	当日会員廃止	当日会員廃止

開催日	タイトル・上映作品	入場者数
4月13日	〈YIDFF 2017 アンコール5：パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ〉 『パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ』	18人
4月27日	〈予測された喪失〉『予測された喪失』	32人
5月11日	〈フィルムのなかのやまがた〉『山形市広報ニュース』『開けゆく峠時』『笹谷トンネル』『私たちの施設』	48人
5月25日	〈YIDFF 2017 アンコール6：レバノン、そこにとどまる人々〉 『そこにとどまる人々』『されど、レバノン』	51人
6月8日	〈月面着陸から（もうすぐ）半世紀〉『科学時報』『人間月に立つ』	22人
6月30日	金曜上映会出張版×FMF（フィルムメーカズフィールド） 〈8mmフィルム映画祭〉『パーソナルフォーカス　東京＋山形セレクション』 	20人
7月14日	金曜上映会出張版×ドキュ山ユース 〈ドキュ山ユース・セレクション：家族写真〉『家族写真』	28人
7月27日	〈YIDFF 2017 アンコール7：インドネシア、家族のふうけい〉 『ノカス』『星空の下で』	29人
8月10日	〈YIDFF 2017 アンコール8：彼女たちの居場所―カンボジア〉 『レッド・ウェディング』『紙は余燼を包めない』	43人
8月25日	やまがた市民映画学校×金曜上映会 〈柳澤壽男監督と福祉映画〉『そっちやないこっちや―コミュニティ・ケアへの道』	54人
10月12日	〈アメリカを旅する〉『ホテルクロニクル』『プレーントーク&コモンセンス』	26人
10月26日	〈痛みと記録と物語〉『石の賛美歌』『ロッツ・ゲットー』	28人
11月9日	〈山形ドキュメンタリー道場2018〉『赤道雨』『デノクとガレン』	48人
11月30日	〈岸善幸監督とドキュメンタリー・ドラマ〉『少女たちの日記帳』『ラジオ』	64人
12月14日	〈YIDFF 2017 アンコール9：僕とささいな父の存在〉 『このささいな父の存在』『プライベート・ウォーズ』	20人
12月21日	〈小川紳介と学生運動〉『青年の海』『現認報告書』	23人
1月11日	〈YIDFF 2017 アンコール10：韓国、生活の柄〉『人として暮らす』『ウラーッ！』	37人
1月25日	〈カメラが見た時代〉『スクリーンプレイ：時代』	29人
2月8日	〈YIDFF 2017 アンコール11：アメリカ〉『ドロガ！』『ディスインテグレーション93―96』ほか	18人
2月22日	〈科学時報：1960年代アメリカ〉『科学時報』『子供の心にふれる』	26人
3月8日	〈YIDFF 2017 アンコール12：中国、インドネシア、当世検閲事情〉 『映画のない映画祭』『カット』	23人
3月30日	〈福島県立相馬高校放送局作品集「震災を伝える」〉 『今伝えたいこと（仮）』『相馬高校から未来へ』ほか	41人

山形大学上映会（不定期）

■山形大学との協力関係のもと、山形大学小白川キャンパスの学生たちと上映会を企画した。山形大学人文社会科学部の今村真央先生を中心として「国際協力論」の授業を取っている学生たちで運営を行い、YIDFF 2017 アジア千波万波特別賞受賞作品『パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ』を上映した。また特別ゲストとして、韓国からチョン・ユンソク監督を招聘し、トークも行なった。ドキュメンタリー映画に馴染みの薄い大学生たちと共に上映会を企画することにより、そこから得られる情報や考えることを実践的に学ぶ機会として、非常に好評だったと感想をいただいた。

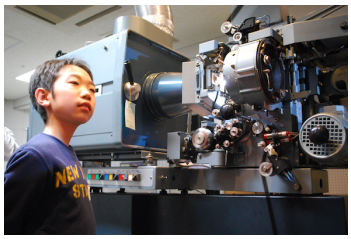
開催日：2019年1月21日［月］
会場：山形大学人文社会科学部1号館301教室
参加者：62名
上映作品：『パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ』
特別ゲスト：チョン・ユンソク（『パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ』監督）

（2）青少年に対する映像教育の推進

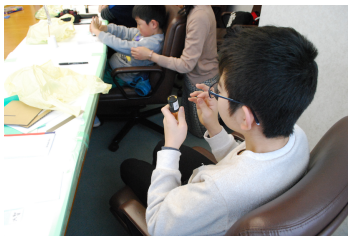
映画教室・ワークショップの実施

山形市創造都市推進事業「こども映画教室」
第9回 子どもの映画教室「つくってみよう　うつしてみよう　うごかしてみよう」

開催日：2019年3月21日［木・祝］
会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー
参加者：17名　保護者の見学もあり
内容：「パラパラアニメをつくってスクリーンに映してみよう！」
「フィルムライブラリーや映写室を探検しよう！」



■毎年恒例となった「子どもの映画教室」。今回は新たに身近なもので簡単に手作りできる「くるくる幻燈機」という視覚玩具を設計し、そのキットを工作してつくること、さらに手書きのパラパラアニメをつくること、そしてそれをスクリーンに映してみることを内容としてワークショップを行なった。参加者はリピーターも含め定員以上の人数が集まり、また初めての工作型ワークショップということもあり、その手作り感を楽しみつつ映画の原理を体感してもらうことができ好評を博した。



「ドキュ山ユース」の活動

■2017年度より活動を開始した高校生による映画祭ボランティアチーム「ドキュ山ユース」。ドキュメンタリー映画と映画祭の魅力を同世代の高校生たちに伝えるべく上映会をメインとして様々な活動を行なっている。今年度も「ドキュ山ユース」の活動をサポートした。イベント感を高めることで、高校生を呼び込む目的により行なった「ドキュ山フェス」、ユース視点によって作品をセレクトする金曜上映会特別版の開催、さらにそれぞれの学校を巡回してドキュメンタリー映画の上映会を開催する「放課後上映会」などを行なった。「放課後上映会」ではユースメンバーの募集も同時に行い、新規メンバーが6人加入するなど、新しい仲間も募りながら活動の幅を広げている。

ドキュ山ユース×金曜上映会〈ドキュ山ユースセレクション：家族写真〉

開催日：2018年7月14日［土］　　会場：BOTA シアター　　来場者数：28人

［上映作品］『家族写真』

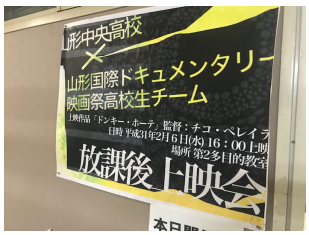
□「高校生にも親しめる上映会」を目指して、映画祭の「貸出作品リスト」から作品をセレクトし、上映会場の選定も含めた企画立案、当日運営をドキュ山ユースが行う金曜上映会の特別版を開催した。1989年のインターナショナル・コンペティション上映作品『家族写真』を16mmフィルムで上映。上映後には、作品内容について来場者たちで共有しあう時間も設けた。ユースが通う各学校でのチラシ配布などを行い、周知に努めたが、当日の高校生参加は残念ながら少ないという結果となった。

放課後上映会

2018年11月12日［月］　山形東高校物理室　共催：山東探求塾
2018年12月13日［木］　上山明新館高校多目的視聴覚室
2019年2月6日［水］　山形中央高校第2多目的教室　共催：生徒上映実行委員会

［上映作品］『ドンキー・ホーテ』（YIDFF 2017 インターナショナル・コンペティション）
［入場者数］山形東：8人、上山明新館：13人、山形中央：15人

□映画祭2017のコンペ部門で上映された作品から『ドンキー・ホーテ』をセレクト。会場となる各高校への上映会申し入れや当日の運営など、映写以外は全てユースの手によって行われた。参加人数は小規模ながら、新たなユースメンバー獲得に繋がるなど、今後の継続によって更なる広がりを見せる活動として注目される。



「全国コミュニティシネマ会議 2018 in 山形」での公開プレゼンテーション

2018年9月28日［金］会場：山形グランドホテル サンリヴァ

□山形市にて開催された「全国コミュニティシネマ会議 2018 in 山形」にて行われた「プレゼンテーション・マラソン」企画において、自主上映活動を展開する高校生グループとしてドキュ山ユースのメンバーがこれまでの活動紹介を行なった。高校生ばなれしたプレゼンに、会場がどよめく場面もあった。

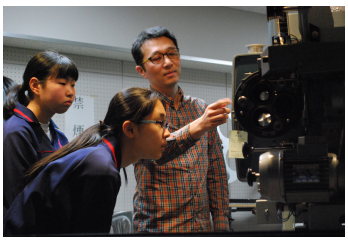
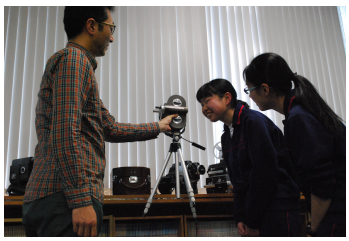
※「ドキュ山フェス　劇場は星夜にて」については、P10「プレイベント」欄を参照。

職場体験受け入れ

■山形市内の中学校からの要請を受け、映画祭事務局にて職場体験を受け入れた。若年層に対する映画祭の広報も兼ねる。2006年から継続して定期的に受け入れを行なっている。

山形市立第三中学校（2名）

受入日：2018年5月15日～17日　　体験内容：映写体験、チラシ制作、資料印刷など

インターン受け入れ

■東北公益文科大学、山形大学、早稲田大学からインターンを受け入れ、事務局の日常的な事務作業、イベント運営補助等のサポート業務に任じ、必要なものについてはその実績評価を大学に報告した。

・東北公益文科大学　公益学部2年：1名
期間：2018年8月20日～24日
主な業務：広報活動、上映会運営補助、事務作業全般
・山形大学　人文社会科学部3年、2年：2名
・早稲田大学　工学部3年：1名
期間：2018年9月3日～7日
主な業務：広報活動（映画祭貸出リスト作品レコメンドシートの作成）、資料印刷、事務作業全般
・東北公益文科大学　公益学部2年：2名
期間：2019年3月12日～16日
主な業務：広報活動、上映会運営補助、事務作業全般

［5］フィルムライブラリー活用・作品貸出事業

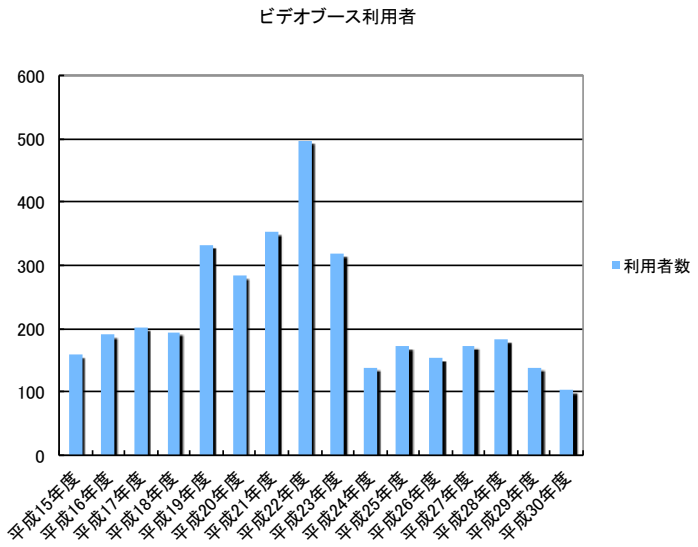
（1）ビデオブースにおける所蔵作品の無料鑑賞サービス

■ビデオブースにおける所蔵作品の無料鑑賞サービスを市民に提供した。本年度は京都、兵庫、岡山など、西日本からの利用者があった。

年間利用者数　103人　（前年比74.1%）

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
利用者数	159	190	202	195	332	283	352	496

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
利用者数	318	139	172	154	173	183	139	103



【利用目的別集計】
- 研究／調査のため…51［県内21、県外30］
- 地域／問題への関心…11［県内8、県外3］
- 娯楽／楽しみ…28［県内17、県外11］
- その他…2［県内1、県外1（取材の為）］
- 未記入…11［県内9、県外2］

【県外利用者】
宮城、群馬、新潟、東京、名古屋、京都、兵庫
岡山

（2）作品貸出リスト普及と貸出推進

◇県内での作品紹介・普及活動

■県内の各団体を直接訪問し、貸出可能な収蔵作品リストを通じ、上映促進を図った。授業に活用してもらえるよう山形大学で営業活動を行った結果、人文社会科学部の演習の授業において『ロッツ・ゲットー』『我々のものではない世界』の貸出が決まった。

◇全国の作品貸出拡大

■公式ウェブサイトなどを通じ、日本国内及び海外へ作品貸出を呼びかけた。

年間貸出件数　25件　（前年比178.6%）

年間貸出作品数　31作品　（前年比124%）

貸出料総計　903,000円　（前年比122.1%）

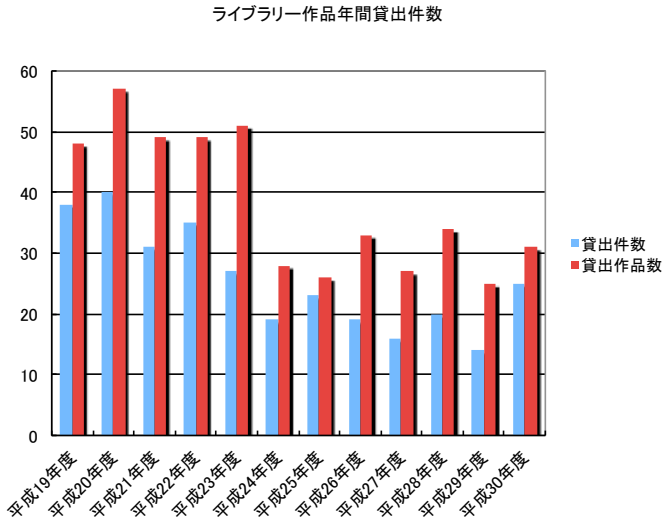
貸出先：北海道、山形、新潟、福島、千葉、神奈川、東京、愛知、奈良、愛媛、広島、山口
自主上映、映画祭、映像関連施設、映画関連イベント、大学

非商業上映権を有しているドキュメンタリー映画の貸出や上映などによる収益の半分を制作者へ還元

■貸出作品についての情報をウェブサイトに掲載し、必要に応じて作品貸出リストを郵送した。

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
貸出件数	38	40	31	35	27	19	23
貸出作品数	48	57	49	49	51	28	26

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
貸出件数	19	16	20	14	25
貸出作品数	33	27	34	25	31



作品貸出リスト［2018年版］

（3）所蔵作品に基づく研究活動とサポート

山形大学人文社会科学部授業の補助

■山形大学人文社会科学部の今村真央准教授の演習「国際協力論」において、山形国際ドキュメンタリー映画祭の上映作品および年間を通しての活動から、既存の枠組みとは異なる「国際協力」を実践的に学ぶ場が設けられた。YIDFF 2017アジア千波万波特別賞受賞作品『パムソム海賊団、ソウル・インフェルノ』の鑑賞とレポート作成、山形国際ドキュメンタリー映画祭wikipediaの更新作業、映画祭（自主上映会）企画書作成などの課題について授業において指導補助を行なった。これにより「山形国際ドキュメンタリー映画祭」に関するwikipediaページが体系的に再編集され、より実態に即した情報がウェブ百科事典に掲載されることになった。これは本演習の大きな成果である。

［6］ネットワーク構築事業

（1）ドキュメンタリー作品の上映推進

■年間を通して、県内各地で行われたドキュメンタリー作品上映に関わり、市民・県民がドキュメンタリー映画に親しむ機会の創出を促した。また東北芸術工科大学主催「山形ビエンナーレ」と連携し、アート分野の観客に向けて、ドキュメンタリー映画と映画祭への関心を高めた。

開催日	上映作品	備考
2018年4月22日	『カレーライスを一から作る』	里山上映
2018年5月27日	『縄文号とパルクール号の航海』	里山上映
2018年6月16日～6月22日	『カレーライスを一から作る』	上映協力
2018年8月4日	『セロ弾きのゴーシュ』	宮城県渡波教会
2018年10月27日	『ミリキタニの猫』	スロージャム
2018年11月11日	『カレーライスを一から作る』	白鷹町
2018年11月17日	『いただきます』	真室川町
2019年3月30日	『人生フルーツ』	山形市七日町Oboco

『世界一と言われた映画館 酒田グリーンハウス証言集』展開

開催日	上映会場	入場者数
2018年4月14日	酒田総合文化センター	580人
2018年4月20日～5月10日	フォーラム山形	899人
2018年4月20日～5月14日	鶴岡まちなかキネマ	1,169人
2018年6月23日～6月24日	福島県郡山市まざっせプラザ	80人
2018年7月13日～7月27日	ムービーオンやまがた	65人
2018年7月13日～8月3日	フォーラム東根	132人
2018年9月30日	福島県南相馬市　朝日座	50人
2019年1月5日～1月18日	有楽町スバル座	1,461人
2019年1月5日～1月31日	イオンシネマ天童	113人
2019年1月5日～1月31日	イオンシネマ米沢	109人
2019年1月5日～1月31日	イオンシネマ三川	316人
2019年1月12日～1月25日	立川シネマシティ	247人
2019年1月12日～1月25日	あつぎのえいがかんkiki	166人
2019年1月21日～2月7日	フォーラム仙台	373人
2019年2月9日～2月22日	横浜シネマリン	256人
2019年2月15日～3月1日	キネカ大森	164人
2019年2月9日～2月22日	名古屋シネマテーク	159人

開催日	上映会場	入場者数
2019年3月16日～3月29日	新潟シネ・ウインド	189人
2019年3月22日～3月28日	フォーラム福島	70人
2019年3月22日～3月28日	フォーラム八戸	48人

山形国際ドキュメンタリー映画祭2019プレイベント×山形ビエンナーレ2018
シネマ通りの夜

※「山形ビエンナーレ」との連携については、P10「プレイベント」欄を参照。

ドキュメンタリー・ドリーム・ショー山形 in 東京 2018

期間：10月6日［土］～10月26日［金］
主催：山形国際ドキュメンタリー映画祭東京事務局（シネマトリックス）
◇山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 上映作品を中心に、東京の映画館を会場として約60本近くをおよそ1ヶ月に渡って上映。上映作品監督を招き、連日トークショーも開催。当日会場にて会員募集、寄付を呼びかけた。

（2）山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー及び収蔵作品についての情報発信

■YIDFF 2017 インターナショナル・コンペティション上映作品およびアジア千波万波作品の一部を加えた「貸出作品リスト2018版」を配布、また公式サイトにウェブ版（HTML版、PDF版）を掲載し広く周知に努めた。これにより、貸出依頼のあった作品については、その上映日や上映会場、主催団体などを公式ウェブサイトに掲載し、映画祭貸出作品の上映情報を発信しつづけることにより、フィルムライブラリーの機能と作品貸出事業の紹介を行なった。また、全国の映画関係者が集う「全国コミュニティシネマ会議 2018 in 山形」にて、山形大学と早稲田大学インターンが取り組んだレコメンドシートとともに「貸出作品リスト2018版」を配布した。
　※関連事項は［5］フィルムライブラリー活用・作品貸出事業の項目を参照。

（3）映画祭ネットワークの構築

■国内外の映画祭とのネットワークを築くべく、各種の活動を行なった。

【「全国コミュニティシネマ会議 2018 in 山形】
日程：2019年9月28日、29日

□「全国コミュニティシネマ会議 2018 in 山形」開催に向けて、山形実行委員会が設立され、山形県内にて映画興行を行う企業、自主上映団体、大学、その他市民団体などの有志が集い、映画上映者の全国大会開催実現に向けてネットワークを形成した。創造都市やまがたの活性化のため、会議終了後も実行委員会は解散せず、様々な活動を行なっていくことが約束された。

【第10回DMZ国際ドキュメンタリー映画祭】
日程：2019年9月13日～20日［招聘］

□畑事務局員が韓国コンペティション部門審査員として招聘され、他二人の国際審査員とともに、9本の作品から最優秀賞と審査員特別賞を選考・授与した。また参加した作家や他の審査員らと交流し、山形映画祭への応募を薦めると同時に、過去に山形で上映された韓国の作家にも再会し、近作について話を聞いた。

【ワーキング・タイトル　国際交流基金アジアセンター上映企画・実践ワークショップ】
日程：2018年8月5日～13日［東京セッション］2019年3月19日～23日［マニラセッション］

□日本及び東南アジアの若手映画上映専門家の育成とネットワーク構築を目的としたワークショップ（主催：国際交流基金アジアセンター）に遠藤事務局員が参加した。東京セッションではイメージフォーラム・フェスティバルに参加しながら映画上映の理論を学んだ。マニラセッションでは国立フィリピン大学を会場に映画上映やシンポジウムを行い、現地の学生や映画制作者、研究者らと交流した。

【セントアンソニーズカレッジワークショップ、アーツ・アンド・インパール】
日程：2018年12月1日～12日［招聘］

□日下部事務局長がインド北東部シーロンにある映像系大学セントアンソニーズカレッジワークショップとインパールで行われた「アーツ・アンド・インパール」に参加した。セントアンソニーズカレッジでは、インド北東部における映画・映像作品、記録映像を収集・保管するアーカイブプロジェクトを新たに立ち上げる予定であり、山形映画祭とぜひ連携して進めていきたいとの申し入れを受けた。また、インパールでの上映企画「アーツ・アンド・インパール」を主催する映画作家、アーティスト及び上映監督たちとの交流を行い、ポストカードなどにより、映画祭への応募を呼びかけた。

［7］「311 ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」事業

■平成26年11月に開設した、東日本大震災に関わる記録映画を収集・保存する「311ドキュメンタリーフィルム・アーカイブ」（データベース：http://www.yidff311docs.jp）は、現在平成31年3月末で109作品が登録され、未登録作品について引き続き順次アプローチ中である。本アーカイブに関連した映画祭主催の上映活動としては、以下のイベントを行なった。

□本アーカイブに関連した映画祭主催の上映活動としては、以下のイベントを行なった。

@ 金曜上映会

福島県立相馬高校放送局作品集「震災を伝える」

開催日：2019年3月30日［土］
上映作品：『今伝えたいこと（仮）』『相馬高校から未来へ』ほか
入場者数：41人

■毎月開催している「金曜上映会」の枠で3月30日に震災関連作品上映会を行なった（於：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー試写室）。上映作品は福島県立相馬高校放送局制作の『今伝えたいこと（仮）』『相馬高校から未来へ』ほか、音声作品などを含む8作品ほどを上映した。当日は遠方からの参加者も含む41人が参加。ゲストとして元相馬高校教諭の渡部義弘さんと同校放送局の卒業生2名をお招きし、トークセッションを行い、当時の制作の様子や作品の背景や思いなどを語っていただいた。

［8］映像文化創造都市推進活動

■山形市のユネスコ創造都市ネットワーク映画分野での加盟認定を受けて、山形市文化振興課ほかと連携しながら、上映やワークショップを通して創造都市への理解を深める活動を行なった。

◇やまがた市民映画学校の開催

やまがた市民映画学校 × 山形国際ドキュメンタリー映画祭2019プレイベント
ドキュ山フェス　劇場は星夜にて　〈ドキュ山ユース〉企画　野外上映会

※「ドキュ山フェス　劇場は星夜にて」については、P10「プレイベント」欄を参照。

やまがた市民映画学校 × 金曜上映会
〈柳澤壽男監督と福祉映画〉

開催日：2018年8月25日［金］
会場：山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー試写室
内容：『そっちやない、こっちや　―コミュニティケアへの道―』上映
**　　鈴木一誌氏による柳澤壽男作品についてのミニ講座**
入場者数：54人

■山形国際ドキュメンタリー映画祭にも所縁の深い柳澤壽男監督の作品上映と鈴木一誌氏（グラフィックデザイナー／書籍「そっちやない、こっちや　映画監督柳澤壽男の世界」造本者）によるトークを開催した。映画監督柳澤壽男の姿を福祉映画の傑作と鈴木一誌氏による柳澤壽男論によって多角的に捉え、「福祉」の現場と協働した映画制作のスタイルを学ぶ機会となった。福祉事業所で働く方々も多数来場し、上映後も活発に意見のやり取りがなされていた。

◇子ども映画教室の開催

山形市創造都市推進事業「こども映画教室」
第9回 子どもの映画教室「つくってみよう　うつしてみよう　うごかしてみよう」

※「第9回 子どもの映画教室」については、P21「映画教室・ワークショップの実施」欄を参照。

［9］映像（撮影・上映）素材デジタル化に伴う研究活動への協力

■東北芸術工科大学が日本学術振興会による科学研究費助成に採択された「小規模映画における保存と修復及びアーカイヴに関する研究」について、研究調査の支援を行なった。主には山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー収蔵庫の環境調査で、測定器の設置などの部分で協力した。また2019年の映画祭時に本プロジェクト関連のシンポジウム等の企画を行いたいとの打診を受け、具体化に向けて定例会議などに参加した。

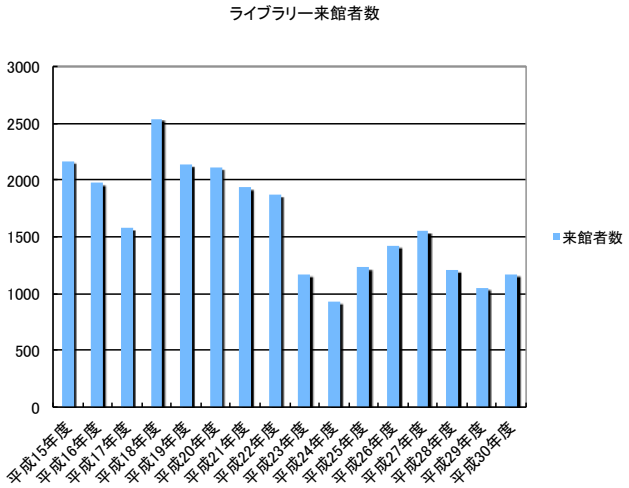
「小規模映画における保存と修復及びアーカイヴに関する研究

【定例会議への参加】
開催日：2019年3月18日［月］　場所：東京藝術学舎
参加者：加藤到副理事長、日下部事務局長、畑事務局員

［10］山形ドキュメンタリーフィルムライブラリー管理業務

■財団法人山形コンベンションビューローより、山形ビッグウイング3Fの山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリーの管理業務を受託し、委託業務を遂行した。

館内利用者　1,174人（前年比111.3%）



およそ10,000本が誰でも無料で鑑賞できる

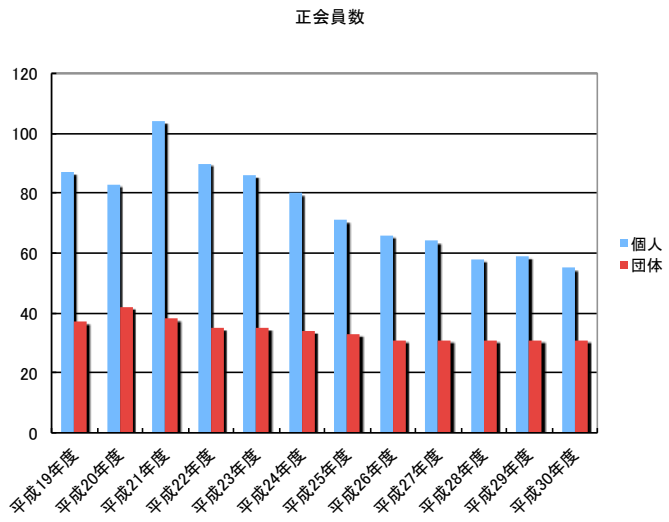
	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
来館者数	2166	1972	1580	2542	2136	2110	1933	1871

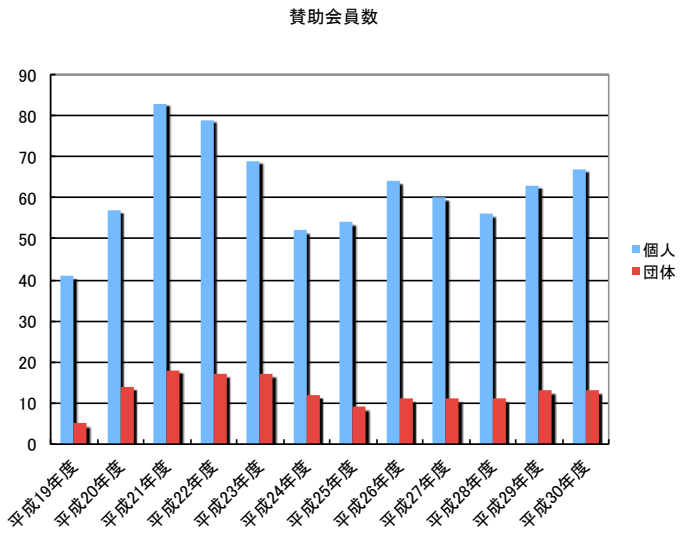
	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
来館者数	1172	933	1231	1425	1552	1210	1055	1,174

［10］正会員・賛助会員の拡大

正会員数　87件［個人56・団体31］　（前年比95.6%）

賛助会員数　80件［個人67・団体13］　（前年比 105.3%）





正会員	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
個人	87	83	104	90	86	80	71
団体	37	42	38	35	35	34	33

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
個人	66	64	59	59	56
団体	31	31	31	31	31

賛助会員	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
個人	41	57	83	79	69	52	54
団体	5	14	18	17	17	12	9

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
個人	64	60	56	63	67
団体	11	11	11	13	13

（1）正会員・賛助会員加入呼びかけリーフレット普及

■正会員・賛助会員加入呼びかけリーフレットを作成し、イベント時の一般市民への配布や映画祭期間中の観客への配布・会場設置などを行ない、会員拡大を図った。

会員募集リーフレット

（2）市内・県内における直接的入会の呼びかけ

■映画祭の広報活動・チケット販売依頼や企業協賛依頼などと兼ね合わせ、山形県内の各地で対面での会員勧誘を行なった。

（2）寄付募集・広報活動

寄付金総額　912,000円

■認定NPO法人の存在意義や活動内容を広く伝えながら、より多くの市民や団体から支持と支援を獲得できるよう、寄付の呼びかけを行なった。プレイベントはもちろん、東京で開催された「ドキュメンタリー・ドリーム・ショー山形 in 東京 2018」などの上映イベントでも来場者にパンフレットの配布とPRを行なった。また公式メールマガジンでも呼びかけを行った。「山の恵みの映画たち 2019」ではクラウドファンディングを活用し、企画への賛同を募り、PRを行なった結果、340,000円の寄付を集めた。

（3）活動報告媒体の発行

■2017年の映画祭開催を主軸とした活動報告媒体「山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 ビジュアルブックレット」を発行し、正会員・賛助会員に映画祭開催・日常業務について、わかりやすさを心がけながら情報を提供した。また、本冊子は協賛企業や国内外での映画祭広報に活用し、好評を得た。

1986	
08-22	**市制100周年記念事業計画策定委員会設置**
1987	
03-02	**同委員会より100周年事業として本映画祭が提案される**
05-06	**本映画祭の実施決定**
1988	
05-12	**第一回部会　実施要項決定**
06-21	**第二回部会　日程決定**
08-25	**第三回部会**
11-21	**第四回部会**
1989	
01-07	昭和天皇崩御
01-08	平成に改元
02-22	**第五回部会　ポスター、映画祭を成功させる会**
04-01	消費税施行3%
04-20	**第六回部会　予備審査について**
06-04	中国天安門事件勃発
07-13	**ネットワーク結成準備会**
07-14	**第七回部会　ノミネート作品　第一回実行委員会**
07-29,30	**映画祭を成功させる会・ネットワーク総会**
	同日より映画祭を記録する映画撮影開始（『映画の都』）
07-31	**第二回実行委員会　チケット、券売について**
10-10	**山形国際ドキュメンタリー映画祭 '89 開幕**
	山形経済同友会第一回明るい山形MVP賞受賞
11-11	ベルリンの壁崩壊
12-20	米軍パナマ侵攻
1990	
05-02	**実行委員会設立総会**
06-19	**第一回実行委員会**
08-02	イラク軍クウェート侵攻
09-13	**第二回実行委員会**
10-03	東西ドイツ統一
1991	
01-17	多国籍軍イラク空爆開始
01-25	**第三回実行委員会**
03-25	**総会**
07-16	**第四回実行委員会**
08-23	**第五回実行委員会**
09-22	クロアチア紛争
10-07	**山形国際ドキュメンタリー映画祭 '91 開幕**
12-25	ソ連崩壊
12-27	**第六回実行委員会**

YIDFF '89 授賞式

YIDFF '91 （右から）佐藤真監督、小林茂カメラマン、評論家・山根貞雄さん

1992	
02-07	**小川紳介監督逝去**
04-07	ボスニア＝ヘルツェゴビナ紛争始まる
07-01	山形新幹線開業
07-16	**第一回実行委員会**
09-01	**コンペ募集開始**
10-23	天皇初の中国訪問
1993	
04-15	**コンペ予備選考開始**
05-10	**総会**
05-29	北朝鮮がノドン1号試射
06-09	皇太子結婚
06-19	**山形・東京合同予備選考会議**
08-09	細川内閣成立、55年体制の崩壊
10-05	**山形国際ドキュメンタリー映画祭 '93 開幕**
11-01	欧州連合成立
1994	
05-26	**総会**
06-27	オウム真理教による松本サリン事件発生
07-08	北朝鮮金日成主席死去
08-29	ロシア軍、旧東ドイツとバルト諸国から撤退
12-16	**第一回実行委員会**
1995	
01-17	阪神・淡路大震災
03-13	**第二回実行委員会**
03-20	オウム真理教による地下鉄サリン事件発生
06-05	**総会**
07-21	**第三回実行委員会**
09-04	**第四回実行委員会**
10-03	**山形国際ドキュメンタリー映画祭 '95 開幕**
12-21	**第五回実行委員会**
1996	
01-11	橋本龍太郎内閣発足
01-17	**今後の方向性と組織の見直しのために検討委員会発足**
02-01	**第二回検討委員会（現況と展望）**
02-15	**第三回検討委員会（専門部会、今年の目標）**
03-01	**第四回検討委員会（東京事務局合同）**
08-23	**第五回検討委員会（整理、フィルムライブラリーについて）**
04-04	**第六回検討委員会（組織、友の会、プレイベントなど）**
05-15	**第七回検討委員会（組織、ライブラリー、県内巡回上映）**
05-28	**第八回検討委員会（映画部会、フェスティバル部会）**
07-05	世界初のクローン羊「ドリー」誕生

YIDFF '93 先住民シアター

YIDFF '95 中央公民館6Fロビー

YIDFF '95 中央公民館4Fゴザ会場

08-12	**第一回実行委員会**
09-06	**第一回金曜上映会『1000年刻みの日時計』**
12-16	**第二回実行委員会**
1997	
02-20	中国鄧小平死去
03-31	**第三回実行委員会**
04-22	ペルー日本大使公邸占拠事件
06-07	**コンペ最終選考会議**
06-10	**総会**
07-01	香港返還
08-31	ダイアナ英皇太子妃、パリで事故死
09-02	**第四回実行委員会、市民賞審査員公募**
10-06	**山形国際ドキュメンタリー映画祭 '97 開幕 『マザー・ダオ』フィルム・カット事件 田中哲実行委員長声明文発表**
10-08	金正日、朝鮮労働党総書記に就任
12-19	**第五回実行委員会**
1998	
02-01	**日本映画ペンクラブ賞受賞**
02-07	長野オリンピック開幕
04-01	日本版金融ビッグバンスタート
05-05	インドネシアで暴動発生
08-31	北朝鮮テポドン試射
12-01	NPO法施行
1999	
01-01	EU単一通貨ユーロ導入
09-21	台湾大地震発生
10-19	**山形国際ドキュメンタリー映画祭 '99 開幕**
12-04	山形新幹線、新庄へ延伸
2000	
05-07	プーチンがロシア大統領に就任
06-13	朝鮮半島分断後初（55年ぶり）南北首脳会談
10-06	ユーゴスラビア崩壊
2001	
01-06	日本、中央省庁再編
01-20	ジョージ・W・ブッシュ、アメリカ大統領に就任
04-26	小泉内閣成立
09-11	アメリカ同時多発テロ
10-03	**山形国際ドキュメンタリー映画祭 2001 開幕 9.11の影響で来日を取りやめるゲストがでる**
10-07	アメリカ軍によるアフガニスタン侵攻開始
11-30	**山路ふみ子賞受賞**
2002	
06-04	**計画概要決定、ポスター・デザイン公募開始**
09-01	**コンペ、アジア千波万波作品募集開始**

YIDFF '97 受賞者記者会見

YIDFF '99 ミューズ『新しい神様』

YIDFF 2001 香味庵クラブ

09-17	小泉訪朝により北朝鮮が日本人拉致を認める
2003	
01-10	北朝鮮、核拡散防止条約脱退宣言
03-01	中国で新型肺炎SARS大流行
03-31	**コンペ作品募集締切**
05-31	**アジア千波万波応募締切**
06-12	**コンペ上映作品決定**
07-10	**市民ボランティア募集開始**
07-18	**アジア千波万波上映作品決定**
10-10	**山形国際ドキュメンタリー映画祭 2003 開幕 関連プログラムとして第18回国民文化祭・やまがた2003 ドキュメンタリー映画フェスティバル日本大展望**
2004	
01-19	自衛隊イラク派遣開始
06-01	**ポスターデザイン公募締切**
09-01	**コンペ、アジア千波万波作品募集開始**
11-11	パラスティナ解放機構アラファト議長死去
12-26	スマトラ沖地震発生、15万人以上が死亡
2005	
01-01	**河北文化賞受賞**
04-01	**映画祭の長期的展望審議のための常任委員会発足**
06-01	**コンペ作品決定**
07-01	**アジア千波万波作品決定**
08-01	**上映全作品決定**
10-01	インドネシア、バリ島で同時爆弾テロ発生
10-07	**山形国際ドキュメンタリー映画祭 2005 開幕**
2006	
01-16	**常任委員会にて映画祭の山形市からの独立を提案**
01-24	独立についての検討委員会設置
2-25	世界人口65億人突破
04-01	**任意団体として独立、NPO法人化に向け準備開始**
05-20	イランで3年ぶりに正式政府発足
09-19	タイで軍事クーデター勃発
10-01	**国際交流基金奨励賞受賞**
2007	
04-01	**特定非営利活動法人山形国際ドキュメンタリー映画祭発足**
04-10	**インターナショナル・コンペティション第2次応募締切**
05-31	**アジア千波万波応募締切**
08-01	**サントリー地域文化賞受賞**
10-04	**山形国際ドキュメンタリー映画祭 2007 開幕**
2008	
03-21	**NHK東北ふるさと賞受賞**
05-25	**総会**
09-01	**コンペ、アジア両部門応募受付開始**

YIDFF 2003 蔵オビハチ6面マルチ上映

YIDFF 2005 パーティーにて県産酒紹介

YIDFF 2007 小学生とゲストとの交流

09-20	ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2008
11-29	プレイベント「李香蘭／山口淑子」
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2009	
04-10	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-23	総会
05-31	アジア千波万波応募締切
06-20	プレイベント「ゴジラを撮った男 本多猪四郎特集」
06-23	コンペ上映作品発表記者会見
08-07	アジア上映作品発表記者会見
10-08	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2009 開幕
2010	
05-22	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
09-18	ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2010
10-30	プレイベント「映画作家ペドロ・コスタ」
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2011	
03-11	東日本大震災発生
04-10	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-21	総会
05-31	アジア千波万波応募締切
06-20	コンペ上映作品発表記者会見
06-25	プレイベント「井上ひさしが愛した女優 高峰秀子」
07-09	プレイベント「アピチャッポン・ウィーラセタクンの世界」
07-26	アジア上映作品発表記者会見
07-26	第29回川喜多賞受賞
08-06	プレイベント「昭和が惚れた女優たち」
10-06	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2011 開幕
2012	
05-19	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
08-18	「ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2012」
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2013	
02-14	第3回地域再生大賞・準大賞受賞
03-01	「ともにある Cinema with Us 忘れないために」開催
04-10	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-18	総会
05-31	アジア千波万波応募締切
06-19	コンペ上映作品発表記者会見
07-27	プレイベント「映画作家 小川紳介 山形を獲る」
07-29	アジア上映作品発表記者会見

YIDFF 2009 さよならミューズ

YIDFF 2011 美術館おばけテレビ

YIDFF 2011 キューバライブ

10-01	「来てけらっしゃい」東京記者会見
10-08	「認定NPO法人」に認定
10-10	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2013 開幕
2014	
05-22	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
09-05	プレイベント「怪異の表象」
09-13	プレイベント「喜劇大行進」
10-03	プレイベント「山の恵みの映画たち」
11-15	ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2014
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2015	
04-15	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-15	アジア千波万波応募締切
05-23	総会
06-24	コンペ上映作品発表記者会見
08-08	プレイベント「市川昆が見つめた戦後日本」
10-08	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2015 開幕
2016	
05-21	総会
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
09-09	プレイベント「山の恵みの映画たち 2016」
09-17	ドキュメンタリー・ドリームショー山形in東京2016
11-05	プレイベント「わたしのドキュやま大芋煮会」
12-15	インターナショナル・コンペティション第1次応募締切
2017	
02-25	プレイベント「映画『SHARING』の挑戦」
04-15	インターナショナル・コンペティション第2次応募締切
05-15	アジア千波万波応募締切
05-20	総会
06-29	コンペ上映作品発表記者会見
07-27	アジア千波万波上映作品発表
08-12	プレイベント「佐藤広一監督作品特集」
10-05	山形国際ドキュメンタリー映画祭 2017 開幕
10-31	山形市がユネスコ創造都市ネットワーク映画部門加盟認定
2018	
05-19	総会
06-27	米アカデミー賞公認映画祭となる
09-01	コンペ、アジア両部門応募受付開始
09-28,29	全国コミュニティシネマ会議 2018 in 山形
2019	
04-15	インターナショナル・コンペティション応募締切

YIDFF 2013 美術館ディスカッション

YIDFF 2015 さよならパーティー

受賞一覧

	各賞
1989.10	山形経済同友会第一回明るい山形MVP賞
1989	イベント大賞
1998.2	日本映画ペンクラブ賞
2001.11	第25回 山路ふみ子文化賞
2005.1	第54回 河北文化賞
2006.10	国際交流基金国際交流奨励賞・文化芸術交流賞
2007.8	サントリー地域文化賞
2008.3	第25回 NHK東北ふるさと賞
2011.7	第29回 川喜多賞
2012.3	第9回 シネマ夢倶楽部賞
2013.2	第3回 地域再生大賞・準大賞
2018.6	米アカデミー賞公認